

## EBSCO MEDLINE with Full Text

若杉 亜矢

### I. はじめに

EBSCO が提供する MEDLINE with Full Text は MEDLINE のフルテキスト版データベースである。MEDLINE にインデックスされる雑誌のうち、22.4% のタイトルのフルテキストを閲覧することができる。2008 年秋にトライアルを行い、医師からの反響が予想以上に高かったため、2009 年 1 月より導入を決定した。

本稿では、MEDLINE with Full Text の簡単な利用方法を、実際利用してからの感想を含めて紹介したい。

### II. 概要と特徴

MEDLINE with Full Text は National Library of Medicine (NLM: 国立医学図書館) 製作による MEDLINE のフルテキスト版データベースである。収録データ数は 1,750 万件以上で、そのうち 110 万件以上のフルテキストが閲覧できる(2009 年 4 月現在)。さまざまな出版社のさまざまなタイトルが収録されており、偏りを感じない。

収録遅延は 12 カ月のものもあるが、最新版を閲覧できる雑誌も多数あり、単体で定期購読しているオンラインジャーナルと同じような感覚で使用できる。古いものでは 1960 年代から掲載されており、出版社のホームページに掲載されていないような古いものも閲覧が可能である。

独自の検索画面があり、キーワード検索はもちろん多数のフィールドを選択することにより詳細な検索を行うことができる。画面もどこと

なく Google の詳細検索に似ており、初心者でも簡単に検索を行うことができる。

MEDLINE with Full Text は EBSCO の利用統計システムを使って詳細な利用統計ができることも大きな特徴と言える。ログイン回数、よく使われている時間帯、アブストラクトを開いた回数、PDF でフルテキストを参照した回数など図書館員が項目を設定して統計を出すことができる。指定した頻度で統計をメールで送ってくれるサービスもあり、月ごとの集計を参照したい場合はとても便利である。

### III. 契約について

料金体系は教育機関(大学)と医療機関(病院)で異なる。教育機関は教員数(常勤の教授、准教授、助教、講師の人数)で価格が決定する。医療機関は常勤の医師、研修医の数で価格が決定する。110 万件以上のフルテキストを閲覧できることを考えると決して高くはなく、コストパフォーマンスは非常に高いと感じる。

### IV. 利用方法

まず、ホームページよりログインする(図 1)。検索は、さまざまな絞り込みを 1 ページの画面で行えるよう限定機能が並んでいる。キーワード検索が基本で、キーワードを入力するボックスが 3 つあるので、そのボックスを利用して論理演算子を用いて検索することができる。論理演算子とは「AND OR NOT」を使って検索語句をつなぎ効率的に検索する方法である。

A AND B → A と B の両方を含むもの

A OR B → A か B のどちらかを含むもの



図1 検索画面

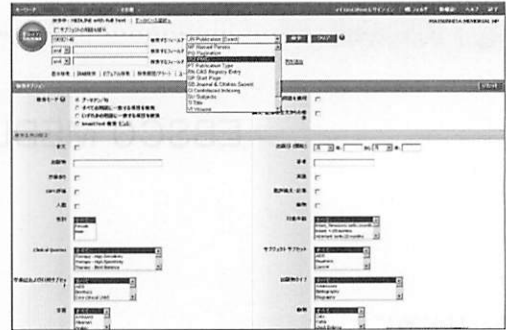


図2 検索画面2



図3 検索結果



図4 PubMedからのリンク

A NOT B → Bを除いた A

また、キーワードのフィールドを指定することもできる。図2のようにPubMed IDで文献を探し出す場合は「PM:PMID」を選択しておくといよい。他にも著者名(NP:Named Person)、タイトル(TI:Title)などを選択することができる。

図3は検索結果のリストからひとつの文献を選択した画面である。タイトルとMeSHを表示している。ここから抄録の画面に行くこともできるし、「全文」のアイコンがあるものはフルテキストへたどり着くことができる。PDFのファイルダウンロード、PC端末への保存などもアイコンで表示されるのでわかりやすい。

また、PubMed Linkoutに対応しているので、Linkoutの設定をしている図書館はPubMedの検索結果からダイレクトにフルテキストへたど

り着くことができる(図4)。MEDLINE with Full TextのLinkout設定は全てEBSCOが代行してくれたので、とても楽であった。当院の場合、MEDLINE with Full Textのホームページから検索を行ってフルテキストへリンクするよりも、PubMedの検索結果からのリンクの方が圧倒的に多く利用されている。

### V. 導入における効果

目に見える効果として、洋雑誌の文献依頼数が減った。当院は文献複写代を各個人から徴収していることもあり、もともと多い図書館ではなく、1カ月に30件程度の依頼が医師、看護師などから寄せられる。そのうちの20%程度を洋雑誌が占めていたが、MEDLINE with Full Textを利用しはじめてからは半数近くに減った。ちょうど閲覧したい文献がMEDLINE with Full

Text に収録されていたのか、MEDLINE with Full Text に収録されている雑誌に絞り込んで検索をしたのかは定かではないが、以前よりも洋雑誌のフルテキストに接しやすくなったことは事実である。

接しやすくなったためであろうか、洋雑誌の検索自体も増えている気がする。今まで和雑誌の検索しかしていなかった若手医師なども、積極的に洋雑誌の検索を行っている場面によく遭遇する。MEDLINE with Full Text は院内だけでなく、自宅でも使用できるので時間や場所にとらわれない利点がある。

## VI. おわりに

MEDLINE with Full Text の簡単な利用方法を述べた。EBSCO では日本医学図書館協会や日本病院ライブラリー協会などにコンソーシアムとして割安の料金設定をしている。近畿病院図書室協議会へのコンソーシアムも検討しているとのことで今後ますます利用しやすくなるだ

ろう。

前述したように当院では導入前と導入後では洋雑誌の検索回数に差が出てきている。図書館員として嬉しい事実である。

オンラインジャーナルの最大の利点は検索結果からダイレクトにフルテキストにつながる点であり、冊子を探してコピーする作業の手間と時間が省ける。しかも、PubMed Linkout に対応していることが導入の決め手のひとつであった。

MEDLINE with Full Text のようなパッケージ商品はわれわれ図書館員にとっても煩雑な登録作業がなく、とても便利である。個々のタイトルごとに行うオンラインの設定はなかなか大変な作業である。しかし、既存のパッケージ商品は非常に高価で、病院図書館では手が出ないものばかりであった。その中で MEDLINE with Full Text は利用範囲やコンテンツの量から考えても割安である。病院図書館でも十分手が出る価格設定である。